



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア・トルコ：シリア側からトルコ領内への砲撃が続発——トルコ軍が、報復攻撃を実施

10月3日から6日までに、シリア側からトルコ側へ迫撃砲が打ち込まれる事件が3回起きた。トルコ軍は、3日から6日まで4日間連続で報復の砲撃を実施した。最初の事件は、10月3日、シリア北部との国境沿いにあるトルコ南東部アクジャカレに、シリア側からの迫撃砲弾が着弾した。報道では、砲撃は2回、計3発が打ち込まれ、2発目が住宅に当たり、女性と子どもを含む住民5人が死亡、警官3人を含む13人が負傷した。このため、トルコ軍は、3日から4日にかけて、レーダーで確認したシリア側の攻撃地点を砲撃した。トルコ軍が砲撃したのは、シリア領内に約10キロ入ったタル・アブヤド (Tal Abyad) とされている。

5日には、シリア西部国境に接する南部ハタイ県アルティノズの農村地帯 (国境から50m) に、シリア領からの迫撃砲弾1発が着弾した。トルコ軍は、直ちに反撃してシリア北部ラッカ州にあるシリア軍の陣地を砲撃したと報道されている。さらに6日には、同じハタイ県のGuvecciに、迫撃砲弾が落下し、トルコ軍が報復砲撃を行った。

10月3日、トルコのエルドアン首相は、このような攻撃は許さないと述べた。トルコは同日、NATOの緊急会議の開催を要請し、同会合はトルコの立場を支持することを決めている。トルコ国会は、10月4日に、トルコ軍のシリア領内への攻撃を認可する法案の審議を行い、同法案を承認した。シリア側は、トルコ領への砲弾の落下で死者が出たことを遺憾とし、事件を調査するとしたが、誰が撃ったかがわからない段階では謝罪はしていない。トルコ側は、報復攻撃は行っているが、エルドアン首相はシリアとの戦いを拡大させる意思はないとしている。5日には、トルコの外務省筋が、シリアはトルコ国境付近から部隊をさげていると述べていた。

評価

シリア側からトルコ側への迫撃砲弾の落下 (あるいは攻撃) が続発しているが、シリア側の状況は不透明である。トルコ側が報復攻撃したとしているタル・アブヤド (Tal Abyad) は、9月中旬に反体制派が占拠したとされたが、その後、戦闘が継続しているようだ。5日と6日の越境砲撃は、3日の越境砲撃地点よりはるか西の国境地帯で起きている。越境砲撃は続発しているが、地域的には、2カ所にわかれている。トルコ側に落下する迫撃砲弾は、

毎回、1発とか数発であり、組織的な砲撃の色合いは薄い。シリア側の戦闘での流れ弾の可能性はあるが、誰が撃ったかははっきりしない。

シリアと隣接するレバノン、ヨルダン、イスラエルでは、戦闘の波紋はすでに国境を越えて波及しており、レバノンなどでは死傷者も出ている。しかし、これら3カ国は、シリア側への越境攻撃はしていない。シリア側からのトルコ領側への流れ弾（あるいは意図的な砲撃）の着弾は、3日のケースが8回目とされるが、死者が出たのは初めてであり、トルコ軍も報復に出たようだ。隣接する国の中で、シリア側に報復攻撃を実施したのはトルコが初めてである。

シリアとトルコは長い国境で接する。その中で、現在、両国の軋轢が大きいのは、2回目と3回目の越境砲撃が起きたトルコ南部（シリア西部）の国境地域である。ハタイ県のある南部地域は、トルコ国籍を持つことになったアラブ人が住む地域である。隣接するイドリブ州や北部のシリア人難民の多くが、同地域に逃げている。他方、シリアは、反体制派を支援する立場を明確にしているトルコは、トルコ南部地域から、シリア側への支援などを行っていると考えても不思議ではない。

他方、シリアからの難民の流入に苦慮するトルコは、シリア領内で難民が安全に滞在できる回廊を設置する構想を主張している。8月30日、安保理は、同構想を検討したが、深刻な問題が多いとして、議論の継続を決定している。シリア側からの越境攻撃が頻発すれば、トルコ側は、より強く同構想を主張するだろう。トルコ側はどこに安全回廊を設置することを想定しているかはっきりしないが、シリア北部・西部になる公算は高く、今回の越境砲撃が起きたあたりを想定している可能性はある。

当面は、越境砲撃が継続するかどうかを注視し、誰が撃っているのかが明らかになるのを慎重に待つ必要があるだろう。

(中島主席研究員)